

総連会長⇒地区連会長⇒支部長⇒会員各位

令和5年5月24日
白鳩会大阪教区連合会
会長 房本喜久美

白鳩会便り No.89

合掌、ありがとうございます。

暑さに向かっておりますが、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか？

さて、5月8日にコロナウィルスも5類感染症となり、インフルエンザ相当の扱いになりました。そこで、いよいよ6月11日（日）午後1時半からは教化部会館におきまして「一日見真会」が対面開催されます。先祖供養祭と各務洋行先生のご講話、喜びの体験談などミニ練成会のような内容です。対面開催のみですので、会員の皆様はふるってご参加ください。教化部会館でお待ち申し上げます。

また、コロナウィルスが感染拡大したこの3年間、対面での誌友会、母親教室が開催できなくなっておりましたが、7月からは対面で開催させて頂けるようになりました。これまでネットで繋がっておられない方には、本当にご不便な思いをさせていただきましたが、7月からは地区の皆様とお集まりくださいませまして講師のお話を聞いて頂きたいと思っております。どうぞ対面での開催を地区の皆様と話し合ってみてください。

つきましては、6月7日に7月の講師派遣をいたしますので、5月中に対面開催かネット開催か、また講師が必要かどうかを地区連会長までお知らせください。今から7月に向けてご準備いただきまして、久しぶりに誌友会、母親教室を対面開催されては如何でしょうか？どうぞ、よろしく願いいたします。

今日は、白鳩会総裁・谷口純子先生の新刊書『夢の地平線』61頁よりご紹介いたします。

「人間の隠れた願いを、表面に描き出した物語がある。バーバラ・クーニー作の『ルピナスさん』（ほるぷ出版刊）という絵本である。主人公のミス・ランフィアスは、子供の頃おじいさんと約束をした——「世の中を、もっと美しくするために、何かをする」と。しかし彼女は、その約束を果たせないまま年老いて、それが気がかりでならなかった。そんなある春の日、彼女は自分の家から見える丘の向こう側へ、久しぶりに行って見た。するとあたり一面、ルピナスが色とりどりの花を咲かせていた。そのルピナスは、自分の家の花の種を、風や鳥が運んだものだった。そのとき彼女の頭に、いい考えがひらめいた。ルピナスの種を沢山買って、村中をこの花で埋めようと考えたのだ。そして翌年の春、その村はルピナスの花でいっぱいとなり、彼女は「ルピナスさん」と呼ばれて村人から感謝されたのである。おとぎ話のようだが、人が生きる意味をさらりと教えてくれる。私たちは、人の喜ぶ顔を見るために生きている、といっても言い過ぎではないのだ。」

人に喜ばれること、世の中をもっと美しくすることを見つけて参りましょう。再拝